

## Y2-25

### 学校と臨床の連携—第1報—職場での 新人看護師と中堅看護師のとまどいの 現状

富山赤十字病院 看護教育連携委員会<sup>1)</sup>、  
富山赤十字看護専門学校 看護教育連携委員会<sup>2)</sup>  
○篇原 志信<sup>1)</sup>、江尻 昌子<sup>1)</sup>、滝口 美枝子<sup>1)</sup>、  
竹内 ちよの<sup>2)</sup>、田丸 早苗<sup>2)</sup>、石黒 靖子<sup>2)</sup>

【はじめに】看護基礎教育で修得する看護技術と臨床で求めるものにはギャップがあり学生が卒業時に1人でできる看護技術は少ない。就職後不安の中で業務を行っており早期離職の要因にもなっている。基礎教育と継続教育の連携を図ることを目的に平成19年度に発足した看護教育連携委員会の活動として新人看護師と中堅看護師が看護技術の指導場面でどのようなとまどいを感じたかアンケート調査を行い、学校の看護技術教育と臨床の新人教育について若干の示唆を得たので報告する。

【方法】新人看護師と中堅看護師を対象に看護技術指導を受けた又は指導した場面でとまどいを感じた技術とその内容、学生時代に習得したかった又は習得してきてほしかった技術、新人看護師・中堅看護師に望むことを記載してもらった。

【結果・考察】新人看護師が点滴注射や輸液ポンプの取扱い、吸引、心電図装着、創処置など診療の補助技術にとまどいを感じているのに対し、中堅看護師は社会人としての態度やコミュニケーションにとまどいを感じており両者の思いにズレがみられた。早く技術を身につけて臨床で役に立ちたいとあせっている新人看護師と、技術より先に社会人として同僚や患者ときちんと向き合う姿勢を求めながらも自分達の新人時代を思い出し暖かく成長を見守る中堅看護師の姿が浮き彫りになった。社会人としてのコミュニケーション能力を身につけることは、看護基礎教育に対し学生から看護師への役割移行の支援につながる教育の提供が求められていることと一致している。臨地実習などで指導者や患者と向き合い人間性を養いさらに就職後も研修の場で社会人としての態度を学び続ける必要がある。

## Y2-26

### 新人看護師研修制度を導入して

前橋赤十字病院  
○福田 富江、西郷 純子、三枝 典子

【はじめに】日本看護協会では、2004年「新卒看護職員早期離職等実態調査」<sup>1)</sup>で1年以内の離職者は全体の9.3%であり、新卒看護師の職場定着を困難にしている要員として『基礎教育と臨床とのギャップ、高い看護実践能力が求められる、精神的な未熟さ』であると報告されている。当院でも新人看護師の離職があり、また指導側でもプリセプターの過重負担が生じており、看護職の仲間は職員全員で育成する土壌作りの必要性を感じた。そこで新人看護師研修制度の導入を検討し、実施することとなった。その実際を紹介し今後の企画を再検討していく。

【概要】1) 目的：『安全で安心な医療を提供するために、臨床実践能力を養い、現場での適応が出来る看護師を育成する』2) 目標：『リアリティーショックの緩和・急性期における看護師の役割を理解する・基礎看護の知識、技術の習得を行う』3) 方法：研修を3ヶ月実施、研修期間を4期に分け研修内容の積み上げができるようにした。指導体制も各期に応じて係長・主任・プリセプター・中堅看護師等スタッフ全員で係わるようにした。

【考察】初めての研修制度であったが、各部署で協力し新人教育に取り組むことができた。実施後のアンケートでは、研修生自身も大切に育てられたという結果であった。